



Topics 1

## おたふくかぜを予防して、ムンプス難聴から守る

2018年4月放送開始のNHK連続テレビ小説「半分、青い。」は、おたふくかぜで左耳が難聴になってしまった主人公の話です。当会では、2017年10月に「おたふくかぜワクチンの定期接種化を急ぐ理由～ムンプス難聴と無菌性髄膜炎～」と題したメディアセミナーを開催し、ムンプス難聴の専門家である国立成育医療研究センターの守本倫子先生にご講演いただきました。ムンプス難聴から子どもたちを守ることは、おたふくかぜを予防する目的のひとつです。

### ●ムンプス難聴とは？

おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）は、ムンプスウイルスによる感染症です。2～3週間の潜伏期の後に、両方またはどちらかの耳下腺に痛みと腫れが現れ、通常は1～2週間で軽快します。ムンプスウイルスが内耳に感染するとムンプス難聴を合併します。ムンプス難聴は片耳でおこることが多いのですが、なかには両耳におこることもあります。

### ●ムンプス難聴は一生治らない

ムンプス難聴では、初診時の約80%が高度以上の難聴です。治療効果が期待できないため一生難聴を抱えることになります。

#### ●難聴のカテゴリー分類

軽度	小さな声や静かな会話を聞き間違えたり、聞き取りにくさを感じたりする。離れたところからの声に気が付かないことがある。
中等度	普通の声の大きさの会話の聞き間違えや、周囲の音が聞こえにくくなるなど、日常生活に支障が出てくる。
高度	音そのものが聞き取りにくくなり、会話の内容がわからないだけでなく、周囲の状況がわからないため身の危険を感じることもある。
重度	ほとんどの音が感じ取れなくなり、叫び声や車のクラクション、ジェット機の通過音も聞こえない。

### ●「片耳＝聞く力は“半分”」ではない

「片耳難聴は、難聴側にいる人の話は聞こえづらくても、反対側の耳が聞こえるから大きな問題ではない。」という認識は間違いです。脳は両耳からの音の情報をもとに様々な判断をしています。片耳が聞こえないと音の情報が限定され、日常生活に支障をきたします。最新技術により人工内耳や補聴器の性能が向上していますが、聞き取りにくさが残り、元通りに聞こえることはありません。

### ●ふだんの会話や音の方向感覚に難しさ

日常生活は多種多様な雑音や騒音に囲まれています。それでも目の前の人とうまく会話ができるのは、耳から入る多くの音を聞き

たい情報と不要な雑音とに聞き分けているからです。難聴の場合、たとえ片耳は聞こえていても、ザワザワした場所の会話はとても聞きづらくなります。また、ふだん自転車のベルに反応して道の端によけたり、人に呼ばれて振り向いたりしますが、これは、両耳で音を聞いているからできること。音が右耳と左耳に届く時間差を脳が瞬時に分析し、どの位置から音が聞こえてくるかを判断しているのです。

### ●耳鳴り、めまいなどの合併症

おたふくかぜには、難聴以外にも耳鳴りやめまいなどの合併症があります。朝ドラ「半分、青い。」では主人公が「左耳の中に小人がいて、歌ったり踊ったりしている」と友達に耳鳴りの説明をしています。子どもは耳鳴りを「電車が走っている」「鈴が鳴っている」など、自分が知っている音に例えて伝えますので、おたふくかぜ発症後の子どもの話には注意が必要です。

### ●「子どもの耳が聞こえない」影響ははかりしれない

子どもが小さいと難聴の発見は遅れがちです。言語の習得時期に難聴がわかったら、発話能力や言語の理解力、表現力が遅れないよう適切な対応が重要になります。

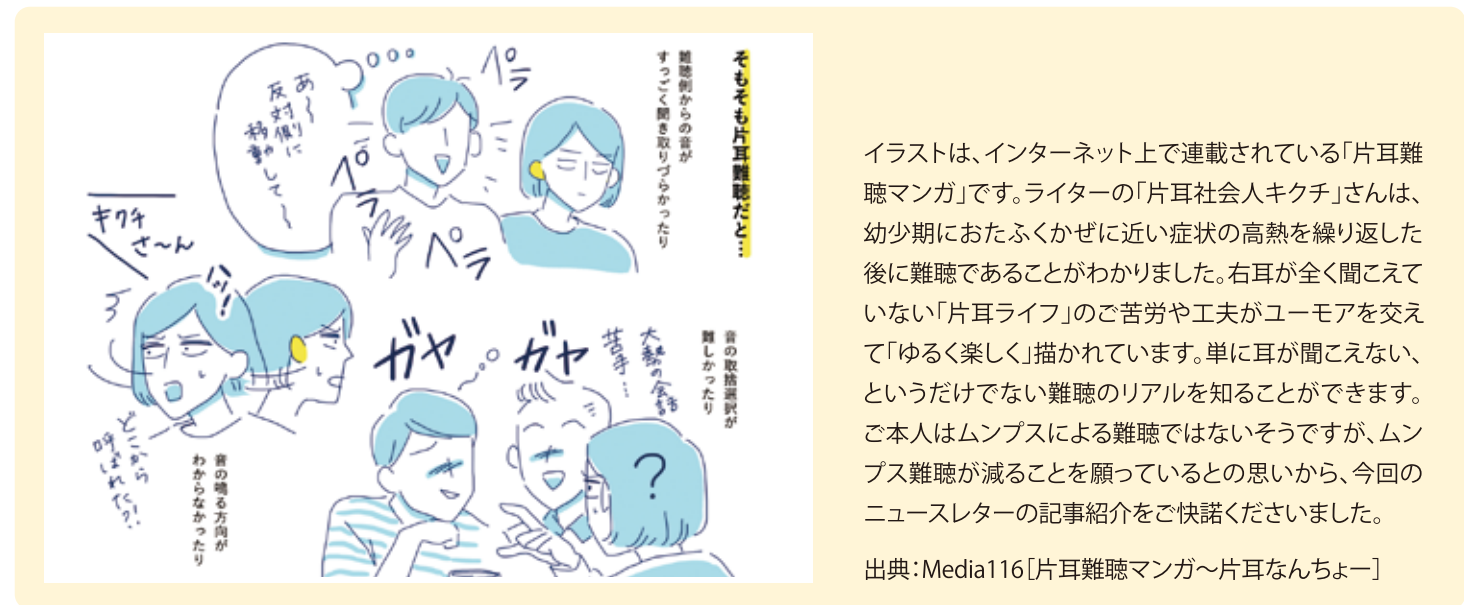
スムーズなコミュニケーションができず、孤立感を感じたり、自分についてのマイナスイメージを持ったりすることもあります。これらは人生の選択肢をせばめ、将来に影響を及ぼします。

### ●ムンプス難聴にならないためにワクチン接種を

ムンプス難聴の最大の予防法は、おたふくかぜにならないことです。世界の多くの国では、ワクチンの普及によりおたふくかぜは「まれ」な感染症となっています。2018年5月時点で、世界の122カ国でおたふくかぜワクチンは定期接種に組み入れられています。そのほとんどの国で接種回数は2回です。日本以外の多くの国では、おたふくかぜの患者数は減少し、ムンプス難聴は非常にまれな合併症となっているのです。

### ●ワクチンの早期定期接種化

おたふくかぜの流行で、ムンプス難聴の子どもをこれ以上増やさないために、会では、厚生労働大臣に対して「おたふくかぜワクチンの早期定期接種化」を求めてまいります。



イラストは、インターネット上で連載されている「片耳難聴マンガ」です。ライター「片耳社会人キクチ」さんは、幼少期におたふくかぜに近い症状の高熱を繰り返した後に難聴であることがわかりました。右耳が全く聞こえていない「片耳ライフ」のご苦労や工夫がユーモアを交えて「ゆるく楽しく」描かれています。単に耳が聞こえない、というだけでなく難聴のリアルを知ることができます。ご本人はムンプスによる難聴ではないそうですが、ムンプス難聴が減ることを願っているとの思いから、今回のニュースレターの記事紹介をご快諾くださいました。

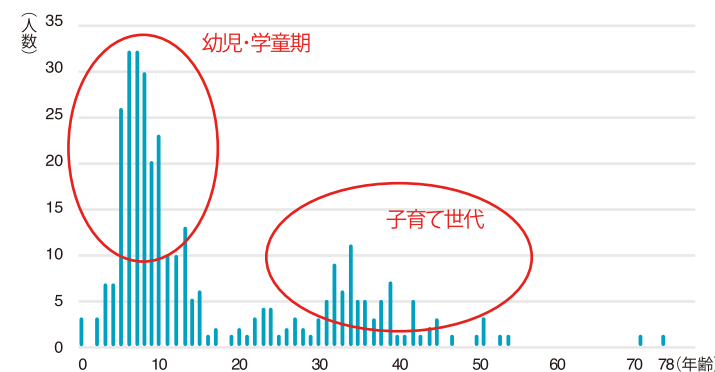
出典：Media116「片耳難聴マンガ～片耳なんちよ～」

Topics 2

## ムンプス難聴の実態～日本耳鼻咽喉科学会の調査より

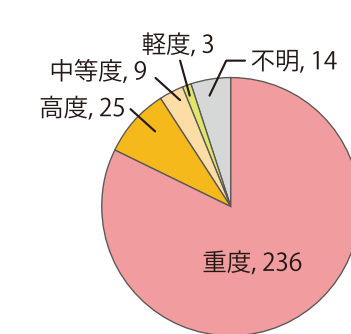
2017年9月、日本耳鼻咽喉科学会がムンプス難聴発症の全国調査の結果を発表しました。全国の耳鼻咽喉科医療機関に対して調査をおこなったところ、2015年から2016年の2年間で少なくとも348人が難聴となり、300人近くの方に後遺症（両耳難聴は16例）が残っていることが明らかになりました。公表された調査結果をご紹介します。

#### ●【図1】発症年齢と人数(2015-2016年発症)



ムンプス難聴の発症は学童期に最も多く、次いで子育て世代に多く認められました。

#### ●【図2】ムンプスによって最終的に一側難聴となった方の、最終聴力レベル(287人)



約90%にあたる261人に片耳の高度以上の難聴が後遺症となってしまいました。たとえもう一方の耳の聞こえが正常であったとしても、両耳で聞こえないと、方向感が欠如して、音がどの方向から聞こえるのかわからなかったり、声をかけられても気がつかないこともあります。また、ザワザワした騒音下での聞き取りが悪くなるため、グループでの話し合いや会議の時に聞き取れなくなるなど、日常生活に支障をきたし、補聴器を装用するようになった人もいます。

Topics 3

VPDの会では、2015年1月～12月の接種者に対して「おたふくかぜワクチン接種後の髄膜炎発生頻度調査」を実施しました。会員医療機関（有志）による前向き調査でおたふくかぜワクチン接種4週間後に聞き取り調査をおこない、髄膜炎の発生を調査しました。結果は、1歳～6歳では髄膜炎の発生はありませんでした。9歳児と12歳児の2件の髄膜炎発生（発生頻度0.19%）が確認されました。

#### VPDを知って、子どもを守ろうの会【ワクチン後髄膜炎発生頻度調査】

方法：会員医療機関（有志）による前向き調査。接種4週間後に医療機関による聞き取り調査  
期間：2015年1月～12月接種分

接種時年齢	1歳～6歳	7歳～16歳	備考
対象数	13,570	1,064	
髄膜炎発生数	0	2	9歳、12歳
発生頻度(%)	0.00	0.19	